

No.17 多発しているコンベア - はさまれ巻き込まれの死亡災害事例（2020年）

2020年発生月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故の型 コード	労働者 規模
11	6 ～ 8	製糖所の原料の受入及び付着土の除去を行う施設において、被災者を含む労働者2名が分担して原料投入口下の原料運搬用ベルトコンベヤー下の泥の堆積状況の目視点検を行っていたが、被災者が点検から戻らず同僚が被災者の点検場所を確認したところ、同コンベヤーの下部ローラーとベルトの間に右肩を挟まれて意識を失っている被災者を発見し、死亡が確認されたもの。	10109	224	7	50 ～ 99
11	8 ～ 10	被災者は、砕石プラントののベルトコンベヤーを点検運転しているとき、同コンベヤーテールプーリー部分のベルトからタレゴムがはみ出ているのを見つけて、パイプを使ってタレゴムのはみ出しを直そうと同コンベヤーテールプーリーの傍らで作業していたところ、何らかの理由で同コンベヤー内部に倒れこみ、頭部を挟まれて死亡した。	20201	224	7	10 ～ 29
11	8 ～ 10	木材チップを運搬するベルトコンベヤーのシャフト（回転軸）に衣服の一部が巻き込まれ、首を絞められた状態のまま心肺停止の状態で見つかったもの。当該ベルトコンベヤー下部周辺に落ちたチップ・木屑を掃除していた際にシャフトに巻き込まれたものと推定される。	10402	224	7	100 ～ 299
11	8 ～	リサイクルのためのごみの選別施設において、缶、瓶、ペットボトル等が混在するごみ袋を破いて内容物をコンベヤに流す作業を行っていた被災者が、稼働中のコンベヤの回転軸とベルトの間に身体が巻き込まれたもの。一緒に選別作業を行っていた作業者が巻き込ま	150103	224	7	50 ～

	10	れた状況に気づき、元スイッチを切ってコンベヤを停止。駆け付けた救急隊がコンベヤのベルトを切断し救出し、病院に搬送されたが死亡が確認された。				99
9	12 ～ 14	砕石プラントの異変に気付いた同僚が、不審に思って砕石投入用ホッパー下部のベルトコンベヤ付近に駆け付けたところ、当該ベルトコンベヤのベルトとローラーの間に巻き込まれている被災者を発見した。その後、約3.5時間後に被災者を救出し、医療機関へ搬送するも死亡が確認されたもの。	20201	224	7	1～ 9
7	8 ～ 10	被災者は、コンクリートガラのリサイクル設備（1次クラッシャー）のコンベヤの下に巻き込まれた状態で発見されたもの。	150102	224	7	100 ～ 299
7	14 ～ 16	工場内木釜（きがま）室にあるエレベータコンベアにてチップが詰まって機械に不具合が生じたため、被災者は、コンベア内でチップを取り除く作業をしていた。被災者は機械を停止して作業を行っていたが、突然コンベアが動き出し、被災者がコンベアとプーリーの間で挟まれた。	10601	224	7	30 ～ 49
5	12 ～ 14	肉豚舎において、糞尿を排出するスクリュウコンベヤに被災者の両足が挟まっている状態で発見され、出血性ショックにより、同日死亡した。	70101	224	7	1～ 9
4	14 ～ 16	被災者は、タケノコの皮脱水機及びタケノコの皮投入ベルトコンベアの修理、調整が終了し、通常の稼働状況を確認中、タケノコ皮脱水機のスクリュウコンベアに身体を巻き込まれた。	11301	224	7	1～ 9
2	14 ～ 16	ベルトコンベヤから流れてくるコンクリートガラ中のプラスチックごみを取り除く作業を行っていた被災者が、ベルトコンベヤのプーリー付近で頭部から出血して倒れているところを同僚に発見されたもの。災害時の目撃者はいないが、頭部、腕、肩等を骨折しており、回転中のプーリー又は回転中のベルトとホッパーとの隙間に	150102	224	7	10 ～ 29

巻き込まれたものと推定される。

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_37.html